

2025 第 1, 2, 3 RUTC 永遠の答えの始まり

2025 年元旦祈り会 2 講

光の経済回復-御座の旅 300%

講師 柳光洙牧師

日/場所 2024 年 12 月 31 日/インマヌエル教会

'24.12.31 元旦 2

教会、宣教、RT ← 「光の経済回復
—御座の旅 300%」 → 巡礼者の祈り
(受容、超越、答え)

序

- 1.地球終末
- 2.聖書の預言
(マタ 24、25)
- 3.終わりの時代
(IIテモ 3:1-13)
- 4.黙 12:1-10
- 5.マタ 24:1-14

本

- 1.残りの者 - 残る者
- 1)24(やぐら) - 残れる者
- 2)25(旅程) - 残す者
- 3)永遠(道しるべ)

2.集中

- 1)3年 8)13:1-4
- 2)40日 9)16:6-10
- 3)10日 10)19:1-7
(準備)
- 4)礼拝
- 5)現場
- 6)挑戦
- 7)24、25、永遠

3.中心

- (残りの生涯)
- 1)幕屋中心
(三つの祭り)
- 2)神殿中心
(一生)
- 3)教会中心
(ロマ 16 章)

結

- ロックフェラー
- 3団体
- ムスリム
- 1.病氣(IIコリ 12:1-10)
- 2.失敗(使 16:6-10)
- 3.危機(使 27:24)

要約

光の経済回復-御座の旅 300% 光の経済を回復するために私たちは御座の旅 300%を見つけるのだ。

教会、宣教、RT 光の経済は教会を生かして宣教できる経済だ。そして、次世代を生かすことができる経済だ。

巡礼者の祈り(受容、超越、答え) 集中祈りということは巡礼者の祈りだ。私たちは巡礼者の道を行かなければならない。集中が必要な理由は、あらゆる事を受容しなければならないためだ。受容できなければ旅程に行くことができず、受容してしまえば耐えられない。それゆえ、祈りで超越するのだ。単純に超越するのではなく、答えを見つけるのだ。すると受容も超越も可能だ。いくら難しくても、深い祈りの中でまことの答えを得てしまえば落胆する理由がない。

口序論

1. 地球終末 多くの碩学が共通して地球終末を話した。

2. 聖書の預言(マタ 24、25) 聖書は最後の時とても苦しい時刻表が来ることを預言した。

3. 終わりの時代(IIテモ 3:1-13) 終わりの時代には、すべて自分の愛、肉的な愛、間違っことを愛する。それゆえ、苦しみが来るしかない。

4. 黙 12:1-10 終わりのとき、ものすごく混乱が来ることを預言した。

5. マタ 24:1-14 しかし、そのようなことがあっても終わりではない。すべての民族に福音が証しされた後に終わりが来る。これが本当ならば、私たちのすべての歴史はここに入っている。私たちが本当に福音を伝える教会ならば、神様が私たちに歴史を任せられる。

口本論

1. 残りの者

巡礼者の祈りで、普段に残りの者の祈りが最も基礎になるのだ。

1) 24(やぐら) 24が神様がくださったやぐらだ。これを持って祈り続けるのだ。

2) 25(旅程) 25は旅程を行かなければならないということだ。

3) 永遠(道しるべ) 永遠という道しるべを建てなければならぬと、この祈りを安らかに幸せにするのだ。

-残る者 すると皆さんに力ができて残る者となる。

-残れる者 皆さんが、もう暗闇を征服するので残れる者として立つようになる。

-残す者 そして、多くの人を残す、残す者となる。

2. 集中

霊的力を受けて健康を得るために、一日に一回程度は集中祈りをしなければならない。

1) 3年 イエス様が3年間に下ろした結論がみな捨てろということだ。間違ったことを握っている。そして、助け主聖霊を送って、すべてのことを思い起こさせて、いつもあなたがたを導き、永遠にともにいる。

2) 40日 その約束をして40日集中した。毎日のように現場、今日のミッションを見つけるのだ。神様のみどころを見つけるのだ。毎日ミッションに集中すれば、産業に神の国が臨んで、すばらしいことが見える。

3) 10日(準備) 10日間マルコの屋上の部屋で集中した。すべての部分で恵みを受ける準備だ。

4) 礼拝 そうするうちに礼拝で答えを見つけるのだ。主日に確実な刻印をさせれば良い。それが答えだ。私が間違ったことを握っても神様が直される。

5) 現場 神様のみことばが毎日現場に現れる。このようになれば信仰生活を正常にすることだ。

6) 挑戦 それとともに挑戦しなければならないことが見える。それが定刻祈りだ。

7) 24、25、永遠 集中するのに三つのことを参考にしなければならない。

8) 使 13:1-4 行った場所、行かなければならない場所で確信ある答えを見つけるのだ。

9) 使 16:6-10 道が閉ざされたとき、深い祈りの中に入って聖霊の導きを受けるのだ。これが時代を変えたのだ。

10) 使 19:1-7 ティラノに行く前、ローマに行く前に確実な答えを見つける。マルコの屋上の部屋に臨んだ働きそのまま毎日、目に見えない力を体験しなければならない。瞬間に恵みを受けるのがとても重要なのだ。この力を養うならば、光の経済が回復する。

3. 中心(残りの生涯)

私の残りの生涯をどのようにすべきかを考えなければならない。簡単に三つのことをすれば良い。

1) 幕屋中心(三つの祭り) モーセ時代だ。幕屋中心はモーセだが、三つの祭りだと見れば良い。安息日中心だ。

2) 神殿中心(一生) ダビデが一生祈ったのだ。単なる神殿中心をしたのではなくて一生、祈った。そして、

神様が1千やぐらの祝福まで与えられた。

3) 教会中心(ロマ 16 章) ローマ 16 章の人々。

□結論

ロックフェラー、3 団体、ムスリム

アメリカで最高に働きを起こしたロックフェラーは、完全に教会中心だった。彼の母親が「あなたは事業家だから、あなたが献身すべきなのは、すべてのお金を稼いで教会にみなささげるほどすることだ」それゆえ、教会を2千個も建てた。3 団体が祈る礼拝堂に毎日集まってムスリムがそうだ。私たちはこれよりはるかに良くできる奥義を持っている。

1. 病気(Ⅱコリ 12:1-10)

パウロは病気になったとき、からだの外にいるのか、中にいるのか分からないと言った。これが集中する巡礼者の祈りだ。深く祈りに入ったのだ。

2. 失敗(使 16:6-10)

失敗したとき、深い祈りの中に入った。すると、時代を変えることが起こった。

3. 危機(使 27:24)

私たちが緊急な状況にあうことがある。パウロは暴風の中で船の下に降りて行って祈った。主の御使いの声を聞くほど祈った。

全文打ち出し

ありがとうございます。世の中には、さまざまな理論があります。しかし、イエス様は簡単に言われました。あなたがたは証人になります。皆さんは証人です。それゆえ、今年に逃してはならない1講は、残りの者、残る者、残れる者、残す者の祈りを味わいなさい。

では、二つ目に絶対に逃してはならないことは、私たちの長老や勳士は皆さんに一番重要なのが健康です。それゆえ、必ず深い時間を持ってください。簡単に話せば、集中する時間を一日に一度持ってください。科学的にも証拠があり、聖書にも証拠があります。してください。また、レムナントは、必ず皆さんは脳を生かさなければならぬので、神様に向かって集中する時間が一度は持ってください。特にまた、病気になっている人は、より一層、みなさんは、自分の病気を忘れるほど深く入れればより良いです。特に、何か助けになると思うのですが、絶対にそうではありません。

それで、さらにこの前、イ・シヒョン博士のような人がそのような話をしたでしょう。およそ八十何歳まで生きるのに、八十、九十、このように生きるのに、ほとんどおよそ10 年間は、病気になって病んで死ぬでしょう。自分はそのまま、自分の年齢では身体検査をしないと仰いました。一理ある話でもあります。

しかし、霊的世界は違います。ですから、皆さんがなぜそのように祈るべきなのかというのは二つ目の理由があるからです。

「光の経済回復 - 御座の旅程 300%」

ほかのことは分かりませんが、この光の経済は回復してください。これをするために私たちは、御座の旅程 300%を見つけるのです。

教会、宣教、RT ←

まず、光の経済ということは、簡単に話せば、皆さんが教会を生かす経済です。そして、宣教できる経済です。そして、次世代を生かすことができる経済は、私たちが回復すべきことです。

→巡礼者の祈り(受容、超越、答え)

では、それなら結論から出しますが、集中祈りというのは何かということでしょう。巡礼者の祈りです。前のことは、皆さんはどうせ世界を生かさなければならぬ残りの者であるということ、その程度ではなくて、私たちは巡礼者の道を行かなければなりません。その祈りです。

結局、なぜ集中が必要なのかというと、あらゆる事を受容しなければなりませんから。受容できないと行くことができないでしょう。そして、受容してしまえば、耐えることができないでしょう。それゆえ、その祈りで超越するのです。祈りによって。単純に超越してしまっただけではなりません。答えがなければならぬのです。答えを見つけるなら、二つのことが可能です。受容も可能で超越も可能です。いくら難しくても、私が深い祈りの中でまことの答えを得てしまえば、落胆する理由はないでしょう。なぜでしょうか。答えが出てしまったから。

もしこの答えがなかったら、ヨセフは行くときに死ぬでしょう。そうでしょう。行く途中で死にます。ところで、これが確実だったために、人はいくら困難が来ても、答えが確実ならば、耐えることができます。何の希望がないのを待とうとすると大変です。希望が確実ならば、待つことができます。

私が健康に確信があるときは、挑戦できるでしょう。しかし、私が落胆してしまえば、挑戦ができないでしょう。それほどまで、これが今この奥義が二つ目のことです。2025年には必ず見つけてください。

口序論

すると、理由を少し知るべきでしょう。

1. 地球終末

多くの碩学が共通して返事をしました。地球終末を。共通して、イエスを信じて、信じていなくても。とても優れた人物は、みなこれを話しました。

2. 聖書の預言(マタ 24、25)

そして聖書は、どのように預言しているのでしょうか。参考にすべきでしょう。終わりの日には、とても大変な時刻表が来ることを預言しました。25章は、教会が揺さぶられること、このようなことを預言しました。

3. 終わりの時代(Ⅱテモ 3:1-13)

そして、さらに神様はパウロに終わりの時代の状況を説明されました。Ⅱテモ 3章に説明を続けてしました。今と全く同じでしょう。神様への愛、こういうことはありません。すべて自分の愛、肉的な愛、しばしば間違

ったことを愛すると、それゆえ、苦しみが来るしかない。終わりの時代に来る苦しみを話しました。

4. 黙 12:1-10

さらに、ヨハネの黙示録には、終わりの時代に、ものすごく混乱することも預言されています。この悪魔がとても大きな力を発揮するように見える、こういうことも預言されました。

5. マタ 24:1- [14]

しかし、私たちに残ることは、イエス様がこのように言われました。「このようなことがあっても終わりではない。このようなこと、あのようなことがある。終わりではない。そして、すべての民族に福音が証しされた後に終わりが来る」

ですから、これが本当ならば、私たちのすべての歴史はここに入っているということです。それなら、錯覚ではない錯覚をすべきです。私たちが本当に福音を伝える教会ならば、神様が私たちに歴史を任せられるでしょう。

では、それゆえ、私たちは三つの無能だけは解決して行きましょう。とても貧しくて、病気、私たちが人も生かすことができなくて、そうして行くのではないでしょう。何かひどく貧しいことは罪ではないのですが、それでも、世界福音化を全くできないということは、ちょっとそうでしょう。

もちろん、病気も罪ではありません。だれでも、病むのですが。しかし、とても皆さんが病んでいることだけ毎日して、名もなく、光もなく病んでいるとすれば、それは別に良いことではありません。

それゆえ、皆さんが世界福音化して行かなければなりませんから。

口本論

では、これを(光の経済回復-御座の旅程 300%)どのように作るのでしょうか。

1. 残りの者

巡礼者の祈りですが、最初には、先ほど話したように、普段の時に残りの者の祈りが最も基礎になるのです。

1) 24(やぐら)

この 24 が神様が与えてくださったやぐらということです。これを持って祈りを続けるのです。

2) 25(旅程)

そうするうちに、25 は旅程を行かなければならないと。

3) 永遠(道しるべ)

最後の時間のとき、明日に話しますが、永遠という道しるべは建てなければなりません。

この祈りを安らかに幸せにするのです。

-残る者

すると、皆さん、力が生じて残る者になります。その程度ではありません。

-残れる者

皆さんは、もう暗闇を征服するので、残れる者として立つようになります。

-残す者

そして、もう多くの人を残す、残す者になるということです。この祈りがこのことであることを1講で話しました。簡単にこれの中で、いまは重要な答えが出てくるでしょう。

2. 集中

一日に一回程度は集中祈りをしてください。必ずしなければなりません。皆さんの健康のためにも、してください。そして、皆さんが霊的力を受けるためにも、これはしなければなりません。全く難しくありません。私が時間を作っているのです。いつするのでしょうか。それも自由です。

私の場合は、おもに集会を控えて集中します。どうしても、ほかの時は平安に、このようにして集会を控えた時は集中します。なぜでしょうか。私にはそれが重要だからです。集中するのも、少し参考にすれば良いです。どのように集中するのかということでしょう。時間が簡単です。深くこのように、この祈り(本論1)に入って行って

1) 3年

イエス様が3年間で下ろした結論が何でしょうか。いつも覚えてください。みな捨てなさいと言われました。捨てないでいますから。間違ったことをしきりに握っています。ここで、できないのです。イエス様がしてはならないと言われることを、何をしようと思わなかに握っているのでしょうか。握っています。そして最後に話されましたから。わたしが行けば、助け主聖霊をあなたがたに送ります。永遠にともにいます。すべてのことを思い起こさせてくださいます。そして、あなたがたいつも、あなたを導きます。それで良いでしょう。

2) 40日

その約束をされて、40日集中しました。ある面では、私たちは40日をする必要はありません。毎日のように、これに対する現場の、今日のミッションを見つけるのです。このことが重要です。見つけられなければ、放っておけば良いのです。私が見つけ出そうとしたのに、見つからなかったことは、かまわないでしょう。神様のみこころは何でしょうか、これを尋ねたのに分からなかったなら、それでかまわないのではないのでしょうか。尋ねないのが問題で。

それゆえ、ここでは毎日のようにミッションに集中するのです。何でもないことのように見えますが、皆さんの産業に神の国が臨んで、ものすごいことが現れ始めます。

3) 10日(準備)

10日間、マルコの屋上の部屋に降りて行って集中したのです。これは、今のことばで言えば、すべての部分での恵みを受ける準備です。

4) 礼拝

そうするうちに、とても重要な礼拝で答えを見つけるのです。「使徒の教えを守り」礼拝で答えを見つけるのに、皆さんは、説教をすべて覚えることはできません。覚える必要もありません。日曜に確実な刻印をさせなさい。これが答えです。私が間違ったことを握れば、どうするのでしょうか。神様が直されるでしょう。刻印させないで置いておくので、刻印させれば、私たちが子どもたちが実践を良くする子どもには、親が気を遣って教えるでしょう。実践をまったくしない子どもには、神経を使いません。なぜでしょうか。どうせしないから。これが2:42です。

5) 現場

そして、とても重要な神様のみことばが皆さんの現場に行くと現れます。毎日。このようになれば、信仰生活を正常にしているのです。静かにしているのに、神様のみことばが成就して。それで良いではないのでしょうか。

答えが来ても、来なくても関係ありません、私は。来ない、それも答えです。重要なことは、みことばが成就したか、成就しないかです。今、私たちが5千種族の中にいるのに、これが神様みことば成就であって、私たちが作り出したことではないということです。すべての種族に行きなさいと言われたから。それでは、それが成されるのか、成されないかを見なければならぬということです。

6) 挑戦

それとともに重要なことに目が開かれます。挑戦しなければならぬことが見えるのです。それが定刻祈りです。あ、足の不自由な人を立て起こさなければならぬ。このようになったでしょう。これは単なることではありません。すべてのユダヤ人が知っている、あの足の不自由な人をイエスの御名で立てる。皆分かります。神殿の美しの門の前に座っていた。外国の人も知っています。なぜでしょうか。礼拝をささげに来るので。それを立て起こすのです。驚くことが起こりました。私たちがキリストを初めて宣べ伝えるとき、どんなことが起こるのか、それはだれも分かりません。それより、さらに大きなことが起こります。

7) 24、25、永遠

こういうことで、先ほど出て来たのがなんなのでしょう。これがまた戻るのです。集中するけれど、結局、これが見えるのですが、ここで三つのことを参考にしてください。

8) 使 13:1-4

皆さんが行った場所です。また、行かなければならぬ場所です。ここで確信のある答えを見つけるのです。見つけられなければ、先送りすれば良いです。見つけられなければ、待てば良いです。そうでしょう。

9) 使 16:6-10

マケドニアです。道が閉ざされたでしょう。今週の1部の説教でしょう。道が閉ざされました。私たちならば、しばしばあきらめたり、別のことをしようとしています。深い祈りの中に入って聖霊の導きを受けてしまったのです。「主の御霊が」そう言われていて、それから「幻の中で」そうでした。これが時代を変えるのです。私たちは、単に同じ働きをしたのですが、神様は時代を変える作業を皆さんに任せられるのです。確実です。

このような次元で、レムナントは度々質問する必要はありません。皆さん年齢が質問する年頃ですが、それは未信者がすることです。皆さんは質問することはありません。心配しなくても良いのです。しきりに皆さんは、未信者状態を持って話すのですが、これからどのようなしたら良いのでしょうか。それは未信者が言うことです。ああ、勉強ができなければどうするのか。できないので良いのです、そのまま。300%を作ってしまうれば良いです。そうでしょう。いくら勉強がよくできても、300%できない、やっと就職するのです。これ(光の経済回復-御座の旅程 300%)になっていれば、人が取りに来ます。

10) 使 19:1-7

ティラノに行く前に。ローマに行く前に。確実な答えを見つけます。マルコの屋上の部屋に臨んだ働きそのとおりに。皆さんが先に毎日、目に見えない力を体験してください。これがすべてです。

皆さんが衝撃を受けてしまえば、皆さんのからだ皆死んでしまいます。多分今回、飛行機事故で生き残った二人は、非常に衝撃が長続きするでしょう。なぜでしょうか。自分も知らないで、あらゆる事を揺さぶられてしまったから。ああ、私がケガしたんだな、これではなくて、目を開いて見たら、私がここになぜいるのか、こう言っていたでしょう。それだけ衝撃を受けたのです。人がこのように少しの間、大きな衝撃を受けても、これが下手すると、死ぬこともあります。

私たちが瞬間瞬間に恵みを受ける、これがとても重要なのです。この力を養いなさい。必ず皆さんにはこの(教会、宣教、RT)働きが起こるでしょう。そうしてこそ、光の経済が回復します。これが準備されるのが 300%

す。

3. 中心(残りの生涯)

中心。これをする時に、いまは残りの生涯をどのようにすれば良いのかということでしょう。これ(残りの生涯)を考えてください。私の残りの生涯をどのようにすべきでしょうか。簡単に三つのことを言います。残りの生涯を正しくした人々。

1) 幕屋中心

幕屋中心。モーセです。そうでしょう。モーセ時代です。

2) 神殿中心

神殿中心。私の残りの生涯。

3) 教会中心

教会中心。

1) 幕屋中心(三つの祭り)

幕屋中心はモーセですが、三つの祭りだと見れば良いです。そうでしょう。これを中心に。安息日中心に、このように。

2) 神殿中心(一生)

ダビデは一生祈りました。単なる神殿中心をしたのではなくて、一生を祈りました。ですから、神様が1千やぐらの祝福まで与えられました。

3) 教会中心(ロマ 16 章)

この教会中心は何でしょうか。完全にローマ 16 章の人々。

あ、私の生涯にこのようにすべきでしょうか。それでこそ光の経済が回復します。それでこそ、暗闇の勢力に勝ちます。そして、すでに皆さんはこの祝福(本論 1)は来ています。少しだけ集中してしまえば、癒やされて健康にもなるのです。皆さんの残りの生涯は健康でなければ、とても力が必須でしょう。それゆえ、年を取るほど深い祈りに入ってください。これで力を得てください。レムナントは言うまでもありません。皆さんが外に出て行って競争するのに、簡単ではありません。人の慰めがどれほどの慰めになるのでしょうか。それは、しばらく少しの間であって、本物の慰めは神様が上から与えられたことで来るということですよ。

□結論

なぜ、このようにするのでしょうか。重要なことが残っているからです。

[ロックフェラー]

なぜ、この中心となるべきなのかというと、ロックフェラーがそのように生きました。アメリカで最高の働きを起したロックフェラーが完全、教会中心に、事業も教会中心に。それは簡単なことではないでしょう。母親が初めからそのように教えました。「あなたが献身するのは、教会の仕事ではない。それは働き人がすることだ。あなたが献身するのはお金だ。あなたは産業人だ。あなたが献身しなければならないのは、学問ではない。あなたが献身すべきなのは、そのままお金だ。すべてのお金を稼いで、教会にみなささげるほどしなさい」

これが打ち込まれたのです。ですから、教会を2千個も建てましょう。教会2千個は、簡単ではありません。大学を建てたということは理解できるでしょうが、教会を2千個も建てたから。

[3 団体]

なぜこのように行かなければならないかというと、3 団体が今こうしていますから。本当にあきれることです。3 団体は毎日集まって。フリーメイソン会館に毎日集まって。どれくらい集いが全く同じなのかというと、ひとまず行ってみたことがありますか。私が行ってみると、部屋の大きさが全く同じです。その代わり、ちょっと大きい、小さい部屋があるでしょう。正確に壁に何人が入れるということを書いてありました。もうそれが続けて入ってくるということになります。そして、それを見ると単に集まって祈る礼拝堂形式です。この人々が毎日集まるのです。

私たちはそのようにはできなくても、何が中心になるべきなのか、残りの生涯。それは出て来るべきだということです。それでこそ光の経済が来るか、来ないかになるでしょう。

[ムスリム]

恐ろしいです。ムスリム。恐ろしいです。

そのために、私たちはこれよりはるかに良くできる奥義を持っています。これをのがしてはなりません。

今日、最初のこと。残りの者、残る者、残れる者、残す者の祈りを回復しなさい。巡礼者の祈り、集中、回復しなさい。明日はちょっと重要なことを言います。

1. 病気

参考に、皆さんが病気になったときは、どのようにすべきなのでしょう。また人が生きていれば、病気になるでしょう。結局、病気になります。若い時は感じられないのですが、年を取れば病気になるでしょう。

2. 失敗

ひょっとして失敗したときは、どのようにすべきでしょうか。

3. 危機

また、ちょっと危機が来たようです。このようなとき、聖書に答えがよく出ています。

1. 病気(Ⅱコリ 12:1-10)

パウロはこのように祈りました。病気になったとき。私がかからだの外にいるのか、中にいるのか分からないと言ったでしょう。すごいのです。それが、この今、集中する巡礼者の祈りです。それゆえ、私がかからだの外にいるのか分からない、このことばは、私についてのことを忘れている、このことです。そうでしょう。そんなに深く祈りに入ったのです。すべきでしょう。病気になったので。何がうらやましくて、ほかのことを見つめるのでしょうか。このように。

2. 失敗(使 16:6-10)

失敗したとき、深い祈りの中に入ります。深い祈りの中に。私たちは何かしきりに探そうとします。深い祈りの中に。すると、時代を変える事が起こってしまいました。マケドニアに。

3. 危機(使 27:24)

また、私たちは緊急な状況に会うことがあります。みな船の上に上がったのですが、パウロは船の下に降りて

行きました。なぜなら、神様が呼べば、どうせ行くのですから。少し高い所にいると生きるでしょうか。船の下に降りて行ったのです。どれくらい祈ったでしょうか。「昨夜、主の御使いが」その程度ならば、すごいでしょ。昨夜、主の御使いが私に話した」これです。「恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。この事実を船に乗っている人に知らせなさい」知らせたら、暴風が静まり... 私たちはそうです。

皆さんは神様の人なので、このようにしてください。必ず忘れてはならない今年の祝福、明日の3講で言います。三位一体の私たちの神様に栄光の拍手をささげましょう。感謝します。

祈り

神様に感謝いたします。私たちに神様の人として新しい力を受けるように導いてくださることを感謝いたします。いまは神様が与えられる力を新しく得ますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン